

# 埋文よこはま30

・横浜の古墳の出現

・催し物ご案内



青葉区稲ヶ原遺跡A地点の陸橋付方形周溝墓。方台部幅18m。古墳時代前期前半（4世紀）。

## 横浜の前期古墳

—横浜の古墳時代の開始を  
— 物語る墳墓たち—

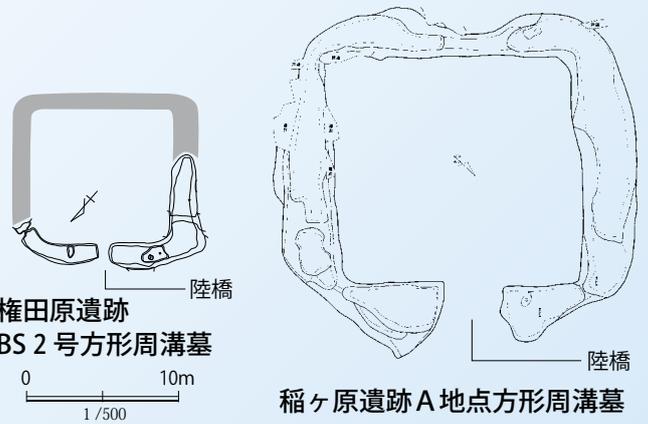
日本列島における古墳時代の開始は、近年の研究によって3世紀までさかのぼることが明らかにされています。3世紀の前半という「魏志倭人伝」に記された卑弥呼が活躍した時代で、邪馬台国と古墳時代の開始は深い関係にあると目されるようになりました。ところで、西日本で邪馬台国を中心とする国々の連合体が出来上がりつつあるころ、東日本においても活発な地域間交流が行われ、次第に地域が統合されて地域をまとめるリーダー（首長）が登場するようです。高く土を盛った“古墳”はこのようなリーダーたちの墓と考えられます。

今回は横浜市域における古墳時代のはじまりについて、市内の前期古墳を紹介しながら解説します。

→次頁へつづく

## ◆方形周溝墓から古墳へ

弥生時代の南関東では、階層の高い人は方形周溝墓という四角く溝を巡らせた墓に葬られました。古墳時代になっても方形周溝墓は残りますが、1辺の中央に陸橋をもつものが現われます。市内では都筑区権田原遺跡や青葉区稲ヶ原遺跡A地点で発掘された事例がありますが、後者は陸橋が発達し、より前方後方墳に近い形となっています。これらの墓は弥生時代の終わりごろから古墳時代の初めごろに登場します。権田原遺跡では弥生時代後期のムラが古墳時代前期まで継続しており、伝統的な集落首長の墓として捉えられます。



## ◆横浜市最古の古墳 一新羽南古墳一

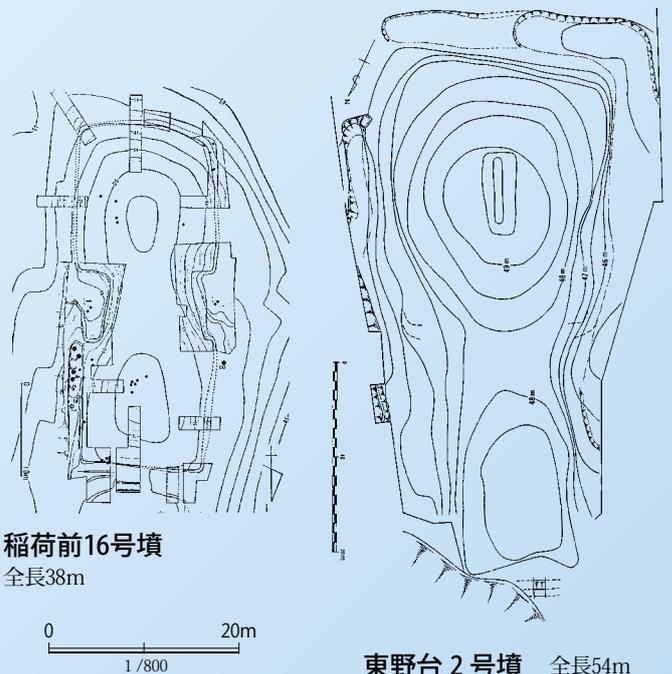
2005年に発掘された港北区の新羽南古墳は、現在のところ横浜市内最古の高塚古墳です。墳丘の大きさは径約20m、高さ3mあり、墳頂の墓壇からは木棺の痕跡がみつき、副葬品として鉄剣・鉄槍・勾玉・ガラス小玉が出土しました。また主体部上からは葬送儀礼に使用された土器の破片が見つっています。土器の特徴から3世紀後半の築造とみられ、それまでの弥生的な小首長とは一線を画す、より広い地域を統括した首長層が登場したと考えられます。なお、千葉県市原市の神門古墳群のような、さらに年代が遡る「出現期古墳」の存在は横浜ではまだ未確認ですが、同じく港北区の日吉台2号墳がその可能性が指摘されています。



新羽南古墳の墳丘



新羽南古墳 副葬品と主体部上出土の土器



稲荷前16号墳  
全長38m

東野台2号墳 全長54m

## ◆前方後方墳の登場

東日本では古墳時代前期の古墳に前方後方墳が多いことが知られています。おおよそ東日本土着の勢力が前方後方墳を築き、大型の前方後円墳は新たに大和政権の影響を受けて、前期中ごろ～後半の4世紀ごろに多く築造されるようです。

横浜市域において定型的な前方後方墳が造られるのは前期中ごろ以降のことで、青葉区稲荷前16号墳や戸塚区東野台2号墳があげられます。前者は鶴見川上流域、後者は柏尾川流域を治める首長で、流域を統括する中規模の首長だったようです。



稲荷前16号墳から出土した底部穿孔壺など

## ◆大型の前方後円墳・円墳の時代

古墳時代前期中ごろから後半にかけて、横浜市・川崎市域にも大型の前方後円墳が登場します。多摩川下流域以南の南武蔵地域における最初の大型前方後円墳は、前期中葉の川崎市加瀬白山古墳とされています。全長87mで、大和政権とのつながりを示す三角縁神獸鏡が副葬品として出土しています。横浜市港北区の矢上の台地上に築造された観音松古墳は1938年に破壊され、測量図も公表されていませんが、全長約100m程度の大型前方後円墳と言われ、加瀬白山古墳に後続する大首長墓です。内行花文鏡をはじめ、銅鏃・石製品など豊かな副葬品が出土しています。

一方、青葉区の虚空蔵山古墳は直径35m、高さ5mの円墳です。前方部はありませんが、同規模の前方後円墳と比較するとはるかに土量が大きく、中規模程度の古墳と言えます。鉄剣・鉄鏃（やじり）・玉類・壺形土器などが出土し、前期後半（4世紀後半）の築造と考えられます。



虚空蔵山古墳の墳丘



三角縁神獸鏡 加瀬白山古墳出土  
加瀬白山古墳と観音松古墳の出土鏡



内行花文鏡 観音松古墳出土  
(慶應義塾大学民族学考古学研究所蔵)

## ◆南武蔵の“クニ”へ

右図は横浜市北～中部の古墳時代前期の墳墓を地図に示したものです（赤い点線が市域）。二大前方後円墳と出現期古墳の可能性のある日吉台2号墳が多摩川・鶴見川の下流域に造られており、この日吉一帯が南武蔵南部地域の中心であったことが分かります。一方、早瀬川上流・鶴見川上流・大岡川中流・柏尾川上流にそれぞれ中規模の古墳群が築かれ、日吉の大首長の下で、中位の首長たちが分担して各地域を治めていたと考えられます。このような地域構造は近年の研究で弥生時代後期まで遡る可能性が指摘されており、魏志倭人伝に記されている一つの「クニ」の実態を示していると考えられます。

→今度の12～1月に横浜の古墳の出現をテーマとした展示を行います。詳しくは次頁をご覧ください。



横浜市域の前期古墳

※加瀬白山古墳は川崎市に所在

# 催し物ご案内

## ○講座 平成26年度「横浜の考古学」

### 横浜の重要遺跡

縄文時代から古墳時代まで、横浜の重要遺跡を取り上げて解説します。

#### 11月13日(木) 縄文時代

1. 花見山遺跡 —縄文時代草創期の土器と石器—  
平山 尚言
2. 神隠丸山遺跡 —縄文時代中・後期の環状集落—  
石井 寛

#### 11月20日(木) 弥生時代～古墳時代

3. 観福寺北遺跡群  
—弥生時代後期・朝光寺原集団の拠点集落—  
古屋 紀之
4. 三殿台遺跡 —弥生・古墳時代を中心に—  
鈴木 重信

◇日時：11月13日・20日(木) 2日間全4回  
13：30～16：00 (13：00開場)

◇会場：横浜市歴史博物館 講堂

◇定員：150名 (2日とも参加できる方)

◇費用：1,000円 (資料代)

◇申込：往復はがきに講座名・住所・氏名 (ふりがな)・  
電話番号記入の上、右下の埋蔵文化財センター住所へ

◇締切：10月31日(金)必着

## ○展示 平成26年度「横浜の遺跡展」

### 古墳の出現

—横浜の集落遺跡と前期古墳—

展示品 北川谷遺跡群・寺谷戸遺跡等出土土器

稲荷前古墳群・新羽南古墳・観福寺北古墳群出土品

◇会 期：12月6日(土)～1月12日(月・祝)

◇会 場：横浜市歴史博物館 企画展示室

◇観覧料：無料 ※市指定・登録文化財展と同時開催

### 関連イベント

#### ・講演会「ヤマタイ国時代の東日本

—古墳出現期のかながわ—

展示に関連して、講演会を催します。

講 師：西川修一 (神奈川県立旭高等学校)

古屋紀之 ((公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター)

◇日時：1月11日(日) 13：30～16：00 (13：00開場)

◇会場：横浜市歴史博物館 講堂 ◇定員：150名

◇費用：500円 (資料代)

◇申込：往復はがきに講演会名・住所・氏名 (ふりがな)・  
電話番号記入の上、下の埋蔵文化財センター住所へ

◇締切：12月19日(金)必着

#### ・フロアレクチャー (調査研究員による展示解説)

◇日時：12月20日(土)11：00～、14：00～

1月11日(日)11：00～ 各回40分程度

◇会場：横浜市歴史博物館 企画展示室

◇費用：無料 ◇定員：先着30名

## ○第4回歴史散策

### 旧桂公田村周辺の遺跡と寺社を歩く

旧桂公田村にある寺社や遺跡をめぐり、地域の歴史を学びましょう。

◇日 時：11月29日(土) 9：00～(半日を予定)

◇定 員：20名 (抽選)

◇参加費：500円 (資料代・保険料)

◇応募期間：10月15日(水)～11月15日(土)まで

◇主な見学コース(予定)：(栄図書館前集合) 永林寺～神明社  
～ひこしが谷横穴墓群～上臈塚～桂台北遺跡～定光寺跡  
(天神橋バス停解散)

※半日近く歩きますので、健脚の方向きのイベントです。

◇申込：氏名・住所・連絡先(ファクスの場合ファクス番号も)  
申し込み人数および「埋文よこはま30」を見た旨を記載  
して、往復はがきかファクスでお申し込みください。

「埋文よこはま」は横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

### 埋蔵文化財センターのご案内

#### JR根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」  
行き、または港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車  
徒歩1分

#### 京浜急行「金沢八景」駅

国道沿い1番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」  
行き、終点「上郷ネオポリス」下車 徒歩1分

- ・見学等の施設利用は、平日の9～17時となっています(受付16時まで)。
- ・施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。

### 埋文よこはま30

発行日 2014年9月19日

編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1

TEL. 045-890-1155

FAX. 045-891-1551